

第2学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 大切ないのち 低学年3-(2) 生命尊重
資料名 「いのちのはじまり」 (ぬくもり)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「自分の誕生は母親や家族の大きな愛情に支えられたことを知ることによって、命の尊さに気付く、大切にしようとする態度を育てる」ことを主なねらいとしている。

生命尊重とは、命をかけたがえのないもの、つまり他の命と変えることができないものとして尊重し、大切に思う心である。しかし、児童を取り巻く環境では、少子化や核家族化の影響で身近な人の誕生や死を目の当たりにすることが少なくなってきている。命は大切であることは知っていても、命の重さや、命には限りがあること、受け継がれていることなど、その尊さについて考えたり理解したりする機会も少ない。

そこで、生まれる前から固く結ばれた母と子の絆や、母親の思いに気付く、命の尊さを学ぶことで、自分の命を大切にしようとする心情を育てることは大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、生活科等の学習において、小動物の死や植物が枯れることに会ったり、小動物に触れ温かい血が通っていることを体験したりして、児童なりに命を感じることができている。しかし、今、生きている自分自身もかけがえのない命をもった存在であり、多くの人に生まれたことを祝福され、大切に育まれてきたということにまで思いが至っていない。これは、自分が大切な存在だという「生きている証」の実感やそう思える体験が少ないからだと考える。

そこで、自分の命が大切なものだという事を感じ、喜びや感謝の気持ちをもつことができるような学習が大切だと考えた。このことは、命の尊厳を感じ、自分をかけがえのない存在として育ててくれた家族に感謝の気持ちをもって、命を大切にしようとする道徳的態度を育てるとともに、生命への感動する心を育てるためにも意義深いと考える。

- 本資料は、「お母さんのお腹の中で赤ちゃんが大切に生まれ、生まれる直前に命の危機に襲われるが、お母さんも赤ちゃんもがんばって、尊い命が誕生する。」という話である。母親の子どもを思う気持ちや二人の固い絆、命が誕生することの大きな喜びや感動が描かれている。

本時指導にあたっては、一人一人の命は、母親の深い愛情と、「生まれたい」という小さなあかちゃんの強い生命力に守られて誕生するという事を感じ感動的にとらえさせ、価値に迫っていきたい。導入では、胎児の心音を聞かせるとともに、こころのノートの動物のあかちゃんの写真を見て、生命の息吹を感じ取らせ、資料へつなげる。展開前段では、命の危機に襲われながらも、生まれようとがんばる赤ちゃんの命をなんとか守りたいというお母さんの気持ちに共感させる。そのために、動作化を通して、お母さんの気持ちを出させながら、ねらいとする価値に迫らせる。展開後段では、身近な家族とのかかわりやテレビなどの間接経験から、命について考えたことを想起させ、価値を内面的に自覚させる。終末では、ゲストティーチャーの助産師さんによる命の誕生の経験談を聞かせ、今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

人が生まれることのすばらしさを感じ、命を大切にしようとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第2学年〇組教室に於いて

5 地域との関連(地域のひと・もの・こと)

地域題材：ぬくもり 地域人材：助産師

- 6 準備 資料「いのちのはじまり」、挿絵(紙芝居)、道徳ノート、こころのノート

7 展開

階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 胎児の心音を聞き、こころのノート P.52 「みんなみんな生きているよ」の動物のあかちゃんの写真を見て思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ すごいな、お腹の中のあかちゃんの心臓の音だ。 ○ 動物のあかちゃんがおっぱいを飲んでいるよ。大切にされているんだなあ。 <p style="text-align: center;">————— めあて —————</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">生まれてくる いのちについて 考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 価値（ねらい）への方向付けのために、母親のお腹の中で生まれている胎児の心音を聞かせる。 ○ 動物のあかちゃんと母親の写真を提示し、命への関心を深めるとともに子どもたちが親から大切に育てられてきたことに気付かせる。
展 開 前 段	<p>2 資料「いのちのはじまり」を読んで話し合う。</p> <p>(1) お腹の中で、元気に育つ「へーちゃん」を思うお母さんの気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからも元気にそだってね。 ○ とっても元気でうれしいな。早く出てきたいのかな。 <p>(2) お腹の中からあかちゃんを守る大切な水が出てきたときの、お母さんの気持ちを道徳ノートに書き、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「へーちゃん」がぶじに生まれるように、がんばっているときのお母さんは、どんな気持ちでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「へーちゃん」ぶじに生まれてね。 ○ おなかがいいたいな。でも「へーちゃん」のためにがんばらなくちゃ。 ○ 「へーちゃん」がんばってね。お母さんがぜったいにまもってあげるからね。 <p>(3) 「オギヤー」と「へーちゃん」が生まれた時のお母さんの気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生まれてくる子のいのちをまもることができた。ほんとうによかった。 ○ うれしいな。大きくそだってね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を通して、「いのち」の尊さを追求し、大切にしようとする気持ちを深めさせる。 ○ 教師の範読を通して、資料「いのちのはじまり」の概要をつかませる。 ○ お母さんの気持ちを共感的に理解させるために、お母さんの顔の表情をつくらせイメージ化（動作化）を取り入れる。 ○ あかちゃんを守るための大切な水である羊水について、補足説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いのち」の尊さや重みに気付かせるために、お母さんの立場に立って、道徳ノートの吹き出しに気持ちを書かせる。 ○ 親として絶対に子どもを守るという強い気持ちを理解させる。 ○ あかちゃんを産むことがどんなに大変かを知らせ、生まれたときの喜びを理解させる。
展 開 後 段	<p>3 今までの生活をふり返り、命って大切だなあ、と思ったことや命について考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高い熱が出た時、お母さんがとても心配してくれた。 ○ 家で飼っていた犬が死んでしまった時、とても悲しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命を内面的に自覚できるように、資料から離れ、自分の命に対する考えを想起させる。 ○ 身近な家族とのかかわりの中で、家族が自分の命を大切にしてくれたことなどを想起させる。 ○ 想起できない児童には机間指導を行い、聞いた話や物語・テレビなどから得た間接経験でもよいことを知らせる。
終 末	<p>4 ゲストティーチャーの助産師さんの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に「いのちの誕生」の出産に立ち会っている時の助産師さんの気持ちを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心のノート P.52 「みんな生きているよ」の人間の赤ちゃんの写真を見せ、助産師さんの話につなげるようにする。 ○ 実際に命の誕生にかかわっている助産師さんの話を聞き、自分の命を大切にしようとする意識の継続を図る。

8 板書計画

◎ いのちって、大切ななあと思ったことや、いのちについて考えたこと。

「いのちのはじまり」

めあて
生まれてくるいのちについて考えよう。

へーちゃん
おなかの中で、でんぐりがえり。
おかあさんのことばがわかっているみたい。

○ 「へーちゃん」がぶじに生まれるようにがんばっているときのお母さんの気持ち。

- ・へーちゃん、ぶじに生まれてね。
- ・おなかがいたいけど、へーちゃんのためにがんばらなくちゃ。
- ・お母さんがまもってあげるからね。

○ 「へーちゃん」が生まれたときのお母さんの気持ち。

- ・へーちゃんのいのちをまもることができてほんとうに良かった。
- ・とてもうれしい。大きくそだってね。

おかあさんのおなかの中からあかちゃん
んが生まれるのをたすけるおしごと。
じよきんし

9 道徳ノート

どうとくノート

二年 くみ

めあて
生まれてくるいのちについて考えよう。

「いのちのはじまり」

○ 「へーちゃん」がぶじに生まれるようにがんばっているとき、お母さんはどんな気持ちでしょうか。

◎ いのちって、大切ななあと思ったことや、いのちについて考えたことを思い出してみよう。
